

## 第10章 現状と将来

### —— 21世紀へ向けて ——

これまで読谷村の戦前を含め戦後の移り変わりを見てきた。そこで今後どう変わっていくのか、またどうなって欲しいか課題等を見ていきたい。個別には第9章の「行政と自治」、「読谷村戦後年表」等にゆずり、村の事業等で大きく変わった所も含めて見ていくことにする。村の基盤整備事業としてまず国道58号線をはじめ県道6号・12号線等の幹線道路の整備と比謝川大橋の架橋を含む水釜大木線及び各地の村道・コミュニティ道の整備があげられる。また住宅地の整備としては渡具知・宇座・儀間復帰先地整備事業、古堅地区土地区画整理事業、喜名移転先地整備事業があった。公園等の整備としては座喜味城跡総合公園・残波岬公園・13か所の児童公園整備を終えている。農業の基盤整備事業としてはトリイ通信施設やポーローポイント射撃場跡地において、渡具知・西部連道・浜屋・渡慶次・萩川・波平土地改良事業が終了している。海岸線におけるリゾート開発は残波岬ロイヤルホテル、残波ゴルフ場、読谷リゾートはスタジオパーク「琉球の風」を開園させている。自然保護の立場での海の保存と開発は土地改良事業を含め議論されているところである。



519 親志は恩納村の多幸山に接する丘陵地に、明治以降の屋取によって長田同様に山村集落として形成されたが、終戦後には同地は嘉手納弾薬庫地域として接收され現在にいたっている。現在、喜名西側から座喜味東側にかけて集落を形成しているが、農耕地が狭いため、その軍用地の返還を切望している。



520 喜名の旧集落地。沖縄戦以前は国道58号線より東に集落はあったが、戦後嘉手納弾薬庫地域として接收され、現在の国道西側の狭い地域に移住、窮屈な生活を余儀なくされている。現在、軍用地は黙認耕作地として利用されているもののハウス栽培等の近代農業を導入できないということもあり特産農産品づくりができずにいるが、軍用地返還により活性化が期待される。





521 非核宣言の石碑の立つところは往古には喜名番所があり、読谷山間切から戦前の読谷山村役場として読谷の中心的役割を担ってきた。同地は北部と中部を結ぶ国道沿いにあり、交通の要所という立地条件からすると商業的發展が期待できるが、やはり、軍用地返還がネックになっている。住環境としては近年返還された飛行場用地に住宅地は広がりを見せており、狭さからくる不便は幾らか解消されつつある。



522 座喜味地区は戦前において広大な農用地を北飛行場に接収され、戦後も米軍軍用地に使用されることとなった。しかし農家は波平について2番目に多く、主にサトウキビの生産にあてているが紅芋の商品価値が高まり芋農家も多い。村民センター地区と位置づけ同飛行場滑走路は返還後はロードパーク構想をもっており、北部と中部を結ぶ休憩地として、商業的拠点の相も呈している。



523 座喜味城を背景に集落としては風水の観点からしても最高の立地条件と考えられる。風土としても、読谷山間切を治めた頂点の村にあって、組踊や棒などの伝統芸能を育んでいる地域である。その文化環境を取り込んだ地域として1987年（昭和62）11月、第2回全国農村アメニティー（快適性）コンクールで優秀賞の「国土庁長官賞」に輝いてた。





524 福祉センター寄りの座喜味地区は新しい集落の広がりを見せている地域である。戦前は比謝から大木を経て福祉センター前を通り高志保、残波に抜ける県道が走っており、幹線道路の沿いにあった。同地域には県内ではここだけに日本軍の造った飛行機の格納庫である掩体壕が4基残っており、戦争文化財として保存が望まれている。また農業の面では前田原の小規模土地改良地区では花き栽培が行われている。



525 座喜味の中央を東西に県道12号線が走っている。ここ座喜味地内に国指定史跡の座喜味城跡、それにつながる村立歴史民俗資料館・村立美術館がある。また、総合福祉センター・平和の森球場・伝統工芸センター等諸施設に集中している。村ではこの飛行場跡域に読谷村役場庁舎を移転すべくその事業を進めている。伝統工芸として座喜味区では花織の地域工房をもっており、伝統工芸振興の一翼をになっている。



526 伊良皆の中央を南北に国道58号線が走る。伊良皆集落はその南西部に立地している。戦前は国道の東側に主村はあったが戦後、嘉手納弾薬庫地域として接収されて現在にいたっている。同地域は黙認耕作地として農地に利用されているが、ハウス栽培等近代農業に着手できないことから、サトウキビ栽培が主流である。やはり早期返還が望まれる地域である。





527 国道58号線から分岐して県道6号線が高志保方面に走っている。同地域には読谷高等学校・古堅中学校・伊良皆郵便局・銀行2行・自動車修理工場はじめ諸事業所が立ち並び読谷では有数の商業街地域である。近年はベッドタウンとして都市地区からの人口流入が多く、この6号線を挟んで北側の旧来の村落共同体と南のいわゆるその他組との接点をどう結び付けるかが課題として残されている。



528 この地域は嘉手納弾薬庫地域で親志、喜名、伊良皆、比謝、大湾、比謝疔、長田、牧原の土地を接収している。同弾薬庫地域は第313航空師団第18戦闘支援航空団に管理され、核の存在がさやかれている。西側は黙認耕作地として利用されているが、山手の山林地帯には出入りできない。自然環境としては座喜味後方とともに読谷村でも最後に残された地域で長田川や比謝川等の水資源涵養林地帯として重要な地域である。



529 比謝の北には県営比謝団地・古堅中学校がある。牧原は戦前は比謝疔の北側の高台に嘉手納と接していたが、終戦後の基地接収で現在の伊良皆南西側に集落を形成している。この地域はエーヤと呼ばれ戦前の県道であるが人通りの少ないところであった。米軍の本島上陸後の最初の拠点として軍司令部が置かれたところとして知られる所である。近年住宅地としての広がりを見せている。





530 比謝地区は国道の東側を嘉手納弾薬庫地域として接收され、現在は国道西側に集中して集落を形成している。近年は集落北側の国道側にスーパーを含む各種小売店をはじめサービス業を中心に商店街を形成している。戦後、他の地域から移り住んだ人たちは主に集落の北東側に集中している。元の地人は比謝公民館北側周辺に多い。比謝2番地には甘藷品種改良で知られる「佐久川芋の碑」が建立されている。



531 比謝町は読谷村の南の玄関口にあつて、長田川と比謝川の合流する所にかつて読谷の唯一の国道を挟んだ商業地とした県下でも有数の町として栄えたが、戦後は嘉手納弾薬庫地域として接收され、大湾東側国道沿いに集落を形成している。ただし自治会加入者で他の大湾、比謝地域に住居を構えている人たちも多い。



532 大湾は戦前は国道を挟んで東西に集落を形成していたが、戦後東側が基地に接收されたため西側に集落を構えている。東側山地に長田川が流れ、自然環境がよく残されている。住宅地域は昔から地下水が豊富で下水道の普及以前より井泉、家の掘り井戸に恵まれていた。比謝町が市街地的性格を呈しているのに対して現在も旧暦での伝統行事を行う豊かな農村的性格の集落である。大湾地内西部に他地域からの移住者が多い。





533 古堅はかつてはモーガンマナー地域に集落はあったが、戦後の基地接収で現在の古堅南小学校の東側と大湾西部に集落を形成してきた。終戦後は米人向けの貸住宅が多く建った。嘉手納航空隊の家庭部隊跡地が1977年（昭和52）11月30日に返還され、以後1980年（昭和55）12月より区画整理事業を行い8年の歳月をかけて1990年（平成2）1月完了した。同地にはNTT沖縄支店嘉手納営業所・村営古堅団地がある。



534 喜名、伊良皆、大湾の東を流れる長田川と、沖縄市に支流を持つ比謝川の合流点で、かつては本島北部をはじめ各地からヤンバル船を集め牛マチとして栄えた地域である。近年は東側の軍用地の一部の使用が条件付きで店舗用ビルとして許可されている。比謝川流域は戦前から景勝地と知られており、水辺空間の保全と公園化が嘉手納側で進んでおり、読谷側も遊歩道等自然景観を取り入れた公園化計画を進めている。



535 牧原は南東を嘉手納町と接し、戦前は全域を嘉手納弾薬庫地域として接収され、主に伊良皆の南西側に集落を形成している。近世期の首里王府の牧場であった。1879年（明治12）の廃藩置県後に失職した士族が入植し、屋取集落を形成したが、大正初期に尚家が私有地として台南製糖に売却した。これに端を発し昭和初期に小作条件をめぐる争議が起こった。現在もこの土地所有権の問題は尾を引いている。





536 渡具知は比謝川河口と東シナ海に面し、国指定の木綿原遺跡や東原遺跡などがあり古代より住環境として最高の土地柄である。戦後は基地に接収され主に比謝の北西側に移住したが、1978年（昭和53）の返還により徐々に住宅建設があり帰村が進んでいる。近く水釜から渡具知を経て国道につなぐ国道バイパスの計画が進められており、都市地区からの移住がますます進むことと予想される。



537 渡具知は1973年（昭和48）の基地返還に伴い、新しい部落づくりを推進した。その基盤整備として「渡具知復帰先地公共施設整備事業」「土地改良総合事業」「団体営灌漑排水事業」「木綿原地区の村道整備事業」等の整備が完了し、渡具知北側地域ではサトウキビ栽培の他にピーマン・すいか・メロン・トマトをはじめ花キ栽培も盛んに行われている。



538 大木地区はもとは楚辺と比謝の一部であった。終戦後は波平について開放され南の6か字の住民が雑居した時期がある。北側に読谷補助飛行場、西側にトリイ通信施設、また東側は牧原や長田からの移住者が、最近では南側に嘉手納からの移住者が多く住んでいる。現在県道6号線が東西に走っているが、大木水釜線の計画が進み開通すると都市地区への交通が便利になることで市街化が予想される。





539 大添地域は楚辺の東の碎石場跡に分譲住宅が建ち並び、村外を中心とする他地域からの移住が進み、楚辺ニュータウンと呼ばれ、第1ニュータウン・第2ニュータウン・フレッシュタウンと急速に住宅地が広がった。住民が久しく望んでいた行政区として1985年（昭和60）3月31日大添自治会を組織し、村23番目の行政字となった。これによって伊良皆から楚辺へと市街化が連続することとなった。



540 楚辺地域は、戦前のトリイ通信施設内に集落はあり、旧県道からは離れていたが、戦後は同地が基地に接収され西側に、碁盤目状に住宅敷地を区画整理して居住した。現在は車社会となり集落内の交通についてはやや不便をかかっている。下水道は村内でもパイロット的に公共下水道楚辺処理区として位置づけられている。戦後集落の北側を県道6号線が走り、商工会館をはじめ各種の店舗が並んでいる。



541 都屋は東シナ海に面し、村内唯一の漁村集落をなしている。かつては半農半漁の村であったが、現在は各地から漁民が集まり漁業にいそしんでいる。読谷村漁業協同組合も漁港内にある。都屋漁港は1969年（昭和44）に県管理の第1種漁港に指定されている。特に県下最大級の大型定置網漁で知られている。県道6号線沿いには県立都屋の里・県立よみたん救護園や村立診療所・生き生き健康センターがある。





542 高志保は村内有数の商業的色彩が強い街村の性格を呈している。県道6号線から座喜味、喜名へつながら県道12号線が分岐し、交通の要所となっている。高志保北西地域は戦後宇座から移住した人が多く、宇座公民館も近くにある。商業地域として、村商工会を中心に経営改善、地域サービスの向上を図りつつ商工活動の活性化が進められている。



543 渡慶次、瀬名波地区は古層の村で純農村の性格を有する字である。読谷村の伊良皆以南で見られる都市地区からの急激な人口流入はほとんど見られず、この地域の世帯数の増加は分家によるものである。農地としてはボーローポイント飛行場跡地が1976年（昭和51）9月30日に106.70ヘクタールが返還され、すでに農業用地基盤整備・渡慶次土地改良総合整備事業が完了し読谷村の農業の拠点となりうるところである。



544 瀬名波、渡慶次、宇座にかけて米軍のFBI Sと呼ばれる瀬名波通信施設地域である。同施設は東アジア各国のあらゆる電波を傍受・分析している。もともと少ない耕地を基地に接収され、他地域へ移住したものも多い。農業はアンテナの間をかいくぐる黙認耕作地にサトウキビやサツマイモを中心に栽培している。この瀬名波通信施設用地61.3ヘクタールが返還されるのをまち土地改良事業を入れる必要がある。





545 残波岬の崎原地区はポーロポイント射撃場として敗戦以来基地として接收されたが1974年（昭和49）11月30日、その用地71.07ヘクタールが返還された。東側は農用地としてまた中央には1988年（昭和63）7月2日に残波岬ロイヤルホテル、その東に地元の共同出資で1991年（平成3）12月25日に残波ゴルフクラブがオープンしており観光施設の充実が計られている。



546 戦後、宇座地区はポーロポイント飛行場に接收され、長浜、高志保地域に居住を余儀なくされていたが、宇座部落復帰先地の公共整備事業が1982年（昭和57）9月4日に着手され83年度で終了し、念願の宇座区復帰が進んでいる。宇座をはじめ読谷村の海岸線は戦後採砂によりかつての砂浜はなくなったが比較的的自然海岸が保全されている。宇座以南、高志保までの海岸でリゾート開発中である。



547 残波岬は東シナ海に突出しており、風光明媚なリゾート地域である。ここは古くから航海の要所であり、岬突端に灯台がある。一帯は外洋を近くにいるため県内では有数の磯釣りの場所として知られている。1983年（昭和58）に岬一帯13万5000坪を残波岬総合公園として開園した。これにより緑化計画を進め「青少年キャンプの森」「村民のスポーツ・レクリエーションの森」として整備しようと計画を進めている。





548 長浜先地の海岸線は沖縄海岸国定公園に指定されて、建設省管轄の海岸保全地域にあり、自然環境をよく残している。長浜は恩納村宇加地と接する集落で村内では比較的農漁村景観を残している地域である。ために宇加地から以北の谷茶まではかつて読谷山間切地内にあり集落景観としては共通するものが見られる。集落後方の高台に墓地と畑地を持っている。



549 萩川土地改良地区は1984～94年度事業でその整備が進んでいる。東寄りに長浜ダムにかかる6,000立方の貯水タンクを供え、三層にわたる同萩川土地改良区をはじめ波平土地改良区、西部連道土地改良区、渡慶次土地改良区、浜屋土地改良区、宇座土地改良区、座喜味土地改良区（池ン当土地改良区）へ自然流下により導水するようになっている。このことによって収益性の高い作物の積極的導入が可能となる。



550 長浜川の上流域は不発弾処理場跡地で、農業用水利用のための県営一般灌漑排水事業によって本島では最大規模の総貯水量160万立方を誇る長浜ダムを建設中である。その定礎式は1991（平成3）11月19日に行われ、現在工事を継続中である。その上流は集水域にあたるため山林地域の保全が必要とされる。将来はその東側を嘉手納バイパスが通過する予定であるためその山林地域の土地利用にはある程度の規制が望まれる。